

「 岡山の未来 」

岡山県岡山市立芳泉小学校 6年 早木 さくら

6月28日～7月8日およそ500mmもの豪雨により、土砂災害が西日本をおそった。私の住んでいる近くは、大きな被害はなかったがテレビを見てみると、少しはなれた真備町では、家が流されたりこわれたりすることもあった。そこで、少しでも被害者を減らすために見つめなおすべき点が3つあると考えた。

まず、1つ目は「岡山県は災害が少ない」という誤解を解くことだ。確かに岡山県は山脈に囲まれ、他の県に比べると災害は少ない。でも反対にいえば絶対に災害が起きないわけではないのだ。この誤解により、大丈夫とそのものを信頼しにげおくれたり、引っこしてきて被害にあった人も少なくない。だから、まずこの誤解を解くことが対策の第一歩だと考えた。

次に2つ目は、土砂災害についての知識をもつことだ。例えば、ハザードマップなどの例が挙げられる。実際に土砂災害が起こった場所と、ハザードマップの予測していた警戒区域は、ほぼ一致していたことが分かった。また家族と逃げ道を話すのにも最適ともいえる。しかし、このハザードマップには問題点もある。それは被害がどのくらい大きくなるのかが分からないため予想をこえると活用できなくなるということだ。つまり、これから土砂災害などの災害と向きあって共に生きていくためには、色々な物と知識を活用していくことが必要と考えた。

最後に3つ目は、共助の心を常にもつことだ。どんな災害でもまきこまれ1人では助からない可能生がある。食べ物や家がなくなってしまうかもしれない。もしあっても、1人では街を復興できないし生きてもいけない。つまり私は何がしたいかという、1人ではできることが限られるということだ。もし自分は被害にあっていなくても、今被害にあっている人はいつかどこかで助けてもらったもしくは、これから助けてもらうのかもしれない。そう思うといってもたってもいられなくなるのではないだろうか。私も今回の豪雨による土砂災害で少しでも使えればと思い、衣類や文房具、生活用品などを寄付した。この共助はとてもむずかしいが人と共に助けあい生きていくために、重要だと考えた。

また、とても暑い中約6400人ものボランティアの方が手伝ってくださったり、色々な国が寄付をしてくれたりと少しずつ岡山は復興に向かっている。

このように、私は3つの対策をあげたが、それはほんのごく一部にすぎない。でも、一番大切なのは決して過去に起きた土砂災害をわすれないことだ。私達は、土砂災害をなくすことはできない。けれど忘れないことによって被害を小さくできるし意識を変えることもできることを知っておいてほしい。岡山の未来のために。これからの日本のために。